

奈良・人と自然の会

第4回東海自然歩道 自然観察会

新子 泰子

明け方までの雨が上がり、玉立橋でバスを降りるとキリリと引き締った冷気になんともく奮い起つという感じ。

ストレッチをして、しばらく野道を「春の七草」を探しもって行く。冬枯れの山道はところどころ雪がシャーベット状で残り、枝葉から落ちる水滴に雨かと錯覚させられたりするけれども、風もなく、登りの少ない行程はあたりをゆっくり楽しめる。

今月のプリントは「冬芽を見分ける」、クリの新芽が本当に栗の実そっくりなのにはびっくり。

今日1番目の巨樹は愛宕神社のケヤキ。

地面近くで分枝した幹が数本。

固まってケヤキらしくない樹形だけれども、空いっぱいに細かい枝がきれいに広がって、まさにケヤキ!

山部赤人の歌碑の横でちょっと休憩、眺めがすばらしい。

そして次の巨樹は戒場神社のホオノキ。

片側が空になっている。幹周りがこんなに太いのを見るのは初めて。

少し離れて戒長寺のお葉つきイチョウ（雌木）

乳根が下がり、これも初めて見るもの。

境内にはマンリョウに良く似た白実の低木があり、お寺の方からカラタチバナ（百両）と教わる。

それにしてもアリドオシを見ることは少ないですね。

葛神社で昼食、熱々の甘い紅茶が実においしい。

午後は陽がさして、室生湖を左に見ながら舗装路を歩く。

フユイチゴの群生や、ツルリンドウの透き通った赤い実ワクワク。

ツチグリがこの時期までたくさん残っているのもおもしろい。口を開けたアケビそっくりのジャケツイバラの実には皆でワイワイ。



弥勒大磨崖仏のいいお顔をじっくり拝んで満足。

最後まで気持ちいい冬のハイキングでした。



寺田正博

節分の植物

立春の前日の行事節分。豆をまいて鬼を払う。そして、ヒイラギにイワシの頭を挿したり、豆殻やトベラを門口に飾る。豆まき以外は少なくなってきたが、行事の起源としては豆まきよりヒイラギ飾りの方が古い。鬼は豆に追われ、ヒイラギやトベラを恐れるとされるが、その起源はどのへんでしょうか。

ヒイラギと魚の頭の組合せは実に古い。平安時代、紀貫之は元旦に都をしのび、「けふは都のみぞ思ひやらる。小家(こへ)の門(かど)の端出之縄(しりくべなほ)の鰯(なよし)の頭、終ら、いかにぞ。といひあへなる」と『土佐日記』(935)に書いている。端出之縄はしめ縄なよしはイナ(ボラ)である。これは節分ではなく正月の風習としてヒイラギと魚の頭が用いられていたようである。

平安時代、宮中を中心として大晦日に行なわれた行事に追儼の儀式があった。方相氏という役が四つ眼の仮面をつけ、鬼を払い、新年を迎えた。これは中国から伝わった行事で中国では新年に山から鬼が降りてくると考えられ、それを追い払う儀式が、大晦日に行なわれた。六世紀の『荊楚歳時記』には正月に「まず庭前に爆竹し、以て山そうの悪鬼をさく」と書かれている。山に住む悪鬼は爆竹が苦手だったらしい。

ヒイラギを飾るのは、葉の鋸歯で家をのぞきにきた鬼の眼を突くためとされる。しかし神々の里である伊勢や出雲では鋸歯のないトベラを同様に使う。鋸歯のないトベラを同様に使うのは、その臭気を鬼が嫌うからといわれている。ヒイラギとトベラの共通点は常緑の生葉を火にくべると両者ともパチパチと音を立てて、はじけながら燃える。

ヒイラギの威力が刺と音であるが、セットで使用されるイワシの頭の意味は?、トベラを使う地方ではイワシの頭の代わりに人の髪の毛を焦がした。髪は焦げるといやな臭いがたつ。イワシとは異臭で共通するようである。

和歌山県有田郡では節分の日、イワシの頭とダイコンの輪切りを竹串に刺して、道の辻で焼き、イワシの口に唾をはきかけて「四七難の虫の口焼く年越し」と大声で叫んだという。虫の口焼きとは、害虫の口を焼いて、農作物の被害が出ないようにするお呪いである。農薬のなかった時代、害虫を退治するのに煙でいぶしたり、悪臭を用いた。それらに十分な効果があったとおもえず、呪術的な要素が大きかったとおもわれる。害虫を人に有害な邪鬼とみれば、それを追い払うために煙や悪臭をもつものを飾るのは、納得がいく。

畑作物の収穫の豊凶を占うために豆を炒って、その焦げ具合を見たという。これも農作業を開始するための一つの儀礼であり、節分にダイズが用いられる原点の一つとみられる。

このように節分の種々の行事は、中国伝来の追儼や俗信と、伝統的な日本の農耕儀式が混合して成立したと見る事が出来る。

行事、いわれには地域等、により諸説があ。

奈良では神社、寺院に於いて種々の行事が行なわれる。

春日大社一万灯籠 興福寺一鬼追い式 法隆寺一追儼会 吉野金峰山寺一鬼火 等

参考引用文献 『植物と行事』湯浅浩史 『日本年中行事辞典』角川小辞典

『草木スケッチ帳』柿原申人 他



ネイチャー なら
奈良・人と自然の会

第5回 東海自然歩道・自然観察会

厳冬の東海自然歩道、玉立橋から青龍寺を経て鳥見山公園へ。新雪の森ではシカやノウサギのANIMAL TRACK（足跡）が見つかるかも。公園から標高400～500米の尾根道を辿り、「花のみてら」長谷寺に向います。どなた様も気楽にご参加ください。

〈コース名〉 ⑤ 鳥見山公園（とみやまこうえん） [12km]

〈日 時〉 2月11日（水） 9時50分 集合

〈集合場所〉 近鉄榛原駅：北口駅前バス乗り場（針インター行）

・ 西大寺〔極原神宮前行各停〕8：46発…大和八木9：15 （西大寺〔極原神宮前行特急〕9：14発…大和八木9：30）

・ 近鉄ナンバ〔奈良行快急〕8：43発…鶴橋8：49乗換〔青山町行急行〕8：55発…大和八木9：33…榛原9：46

〈行 程〉 近鉄榛原…玉立橋～青龍寺～鳥見山公園～まほろば湖～近鉄長谷寺

〈参加費〉 参加費として10月から3月までの半期分：@200円を申し受けいたします。

〈担 当〉 阿部和生 寺田正博 弓場厚次

〈電車追加〉 西大寺8：58発…八木9：26

* 2月例会の集合時間が早くなりました。ご注意下さい。

ネイチャー なら
奈良・人と自然の会
2月例会 『野鳥観察会』

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 日 時 | 2月16日（月）AM9：30～PM3：00 |
| 2 場 所 | 奈良公園 一帯 |
| 3 集 合 | 近鉄 奈良駅 行基菩薩像前 AM 9：30 |
| 4 担 当 | 長野 晃 氏（当会会員・日本野鳥の会会員） |
| 5 準 備 | 弁当持参、双眼鏡・スコープ等 観察用具 |
| | 連絡先 長野 晃
川井 秀夫 |

【お詫び】1月号での担当者紹介に誤りがありましたので、訂正いたします。〈編集〉

ネイチャー なら
奈良・人と自然の会
3月例会 「野草料理と竹笛」
実施日：3月17日（水）

詳細は次号にてお知らせいたします。



ネイチャー なら
奈良・人と自然の会

第6回 東海自然歩道・自然観察会

弥生三月、東海自然歩道の自然観察会もコースの中間に入り、「花のみてら」長谷寺より三輪山沿いに三輪の大神神社に向います。玉列神社の金魚椿や慈恩寺の大ケヤキ等を観ながら気楽に早春の初瀬街道を巡ります。

〈コース名〉 ⑥ 初瀬街道 (はせかいどう) [11km]
〈日 時〉 3月28日(日) 9時50分 集合
〈集合場所〉 近鉄長谷寺駅 : 改札口

・ 西大寺〔橿原神宮前行急行〕8:41発…大和八木9:06

・ 近鉄ナンバ〔奈良行快速〕8:34発…橿原 8:39乗換〔青山町行快速〕8:43発…八木9:15…桜井9:18乗換9:30…長谷寺9:38

〈行 程〉 近鉄長谷寺駅～長谷寺～玉列神社～大神神社～JR三輪駅…近鉄桜井駅
〈参加費〉 参加費として10月から3月までの半期分: @200円を申し受けいたします。
〈担 当〉 豊島すみ子 | 寺田正博 | 弓場厚次 |

2004年1月度 定例幹事会報告

1. 日 時 : 1月9日(金) pm 6:00 ~8:00
2. 場 所 : 奈良県文化会館
3. 司 会 : 樋口 書記: 阿部
4. 出席者 : 川井、小山、寺田、樋口、弓場、豊島、勝田、阿部 8名
5. 議 事

【報告事項】

* 【お詫び】 12月度幹事会報告【討議事項】 1~3月の行事確認・開催日の訂正をお願いします。

・ 「月例会」 3月25日(水)「矢田公園一野草料理と竹笛」……3月17日(水)に訂正

・ 「東海自然歩道」第6回 3月25日(木)「初瀬街道」……3月28日(日)に訂正

① 会員動向 94名 会計報告 98,104円(12月末残高)

② 12月度例会 「大和三山巡りと忘年会」 参加者 28名 (15名)

③ 東海自然歩道・自然観察会 第3回「室生寺」 参加者 22名

・ 参加者に次年度用として、アンケートを実施した。「企画会議」の資料に活用する。

④ 奈良市忍辱山 国有林間伐実習・奈良森林管理事務所と打ち合わせ、実施の方策を決定する。

【確認事項】

① 東海自然歩道・自然観察会 第4回「額井岳」 近鉄橿原駅北口バス乗場集合。

② 1月度例会「新春講演会」 講師 河野 猪太夫先生

・ 午前中は奈良公園の自然観察会、午後は国際奈良学セミナーハウスにて講演会。

【討議事項】

① 新年度 行事計画 : 2月2日(月)午後 生駒市において「企画会議」を開催する。

② シニア自然大学講座生「進路説明会」PRの件 (阿部、大石、大寺 3名参加予定)

・ 1月11日(日)説明会会場において機関紙(11、12、1月号)によりPRする予定。

③ 古事の森 植林事業として3月に春日山地獄谷で実施される予定。(参加予定: 阿部)

④ 黒髪山キャンプフィールド自然塾 参加スケジュールの提案資料の報告。(樋口)

⑤ 「いこま棚田クラブ」

・ シニア自然大学・自然保護部の中に設けられた当クラブは独自に活動が始まり、作業内容も順調に進行している。「奈良・人と自然の会」として、行事には任意で参加し、協力を行う。

編集担当 : 勝田 均

Tel & Fax

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫